

# オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第74号

2015年4月27日

<http://www.australianstudies.jp/>

## 1. 第26回全国研究大会（2015年度総会）のご案内

開催日：2015年6月13日（土）・14日（日）

会場：慶應義塾大学 三田キャンパス（〒108-8345 東京都港区三田2-15-45）

\*交通アクセスについては3頁もご参照ください。

### □6月13日（土） 第1日目

10:00～12:30 理事会（研究室棟1階A会議室）

13:00 受付開始（東館6階 G-SEC Lab）

13:30 開会セレモニー（東館6階 G-SEC Lab）

司会 永野隆行（オーストラリア学会副代表理事・獨協大学）

開会挨拶 福嶋輝彦（オーストラリア学会代表理事・防衛大学校）

開催校挨拶 オーストラリア大使館よりご挨拶

14:00～14:45 特別講演 \*同時通訳あり

**Reading *Walkabout* in Japan: Travel, Mobility, and Place-making in *Walkabout* magazine**

**Associate Professor Anna JOHNSTON**

**（東京大学アメリカ太平洋研究センター客員教授）**

15:00～17:30 豪日交流基金助成シンポジウムI（東館6階 G-SEC Lab） \*同時通訳あり

**“Politics of Australia 2015: What Japan Can Learn”**

司会 杉田弘也（神奈川大学）

基調報告 Dr Tim Soutphommasane（オーストラリア人権委員会委員（人種差別担当））“Forty years of the Racial Discrimination Act: its impact on Australian legal and political culture”

報告者 Dr Nick Economou（モーナッシュ大学）“Inner cities versus the rest: new tensions and old divides in Australian politics”

Dr Anika Gauja（シドニー大学）“The Politics of Sydney: Evidence from the 2015 New South Wales State Election”

18:00～19:30 懇親会（中国飯店 三田店：港区芝5-13-18 いちご三田ビル1F）

### □6月14日（日） 第2日目

9:15 受付開始

9:30～12:00 一般個別研究報告・テーマセッション

10:00～12:00 第1分科会：テーマセッション1（西校舎1階512教室）

10:00～12:00 第2分科会：テーマセッション2（西校舎1階513教室）

9:30～12:00 第3分科会：一般個別研究報告（西校舎1階515教室）

12:00～13:00 昼食休憩／理事会（研究室棟1階A会議室）

13:15～13:45 総会（東館6階 G-SEC Lab）

14:00～17:00 シンポジウムII（東館6階 G-SEC Lab）

**「新自由主義時代のオーストラリアにおける差異／境界と社会統合」**

司会 塩原良和（慶應義塾大学）

報告者 津田博司（筑波大学）「新自由主義時代における歴史表象と国民統一—アンザック・デイを中心に」

藤田智子（駒澤大学）「新自由主義時代における家族・ジェンダー・セクシュアリティ——『こども最善の利益』をめぐる」(仮)

栗田梨津子（国立明石工業高等専門学校）「新自由主義と先住民性の揺らぎ——アデレード北西部郊外における人種関係を事例に」(仮)

討論者 関根政美（慶應義塾大学）

17:00 閉会挨拶

- ◆ 出欠：全国研究大会参加の有無にかかわらず、同封の返信用はがきに必要事項をお書き込みのうえ、6月2日(火)までにとどくようにご投函ください。
  - ◆ 昼食：会場および田町駅周辺の飲食施設・コンビニ等を各自ご利用ください。13日(土)はキャンパス内の学生食堂も14時まで営業しております。シンポジウム会場内に持ち込み飲食可能なスペースもございます。
  - ◆ 宿泊先：会場は交通の便の良い場所がございますので、宿泊施設は各自ご手配ください。
  - ◆ 懇親会：懇親会費は5,000円(学生会員4,000円)を予定していますが、多少変動することがあるかもしれませんので、その節はご容赦ください。懇親会費は当日大会受付で申し受けます。なお、懇親会への参加は、必ず同封の返信用はがきでお知らせくださるようお願いいたします。
- \*プログラム等は変更される可能性があります。また、本大会開催にあたってオーストラリア大使館・豪日交流基金、慶應義塾大学よりご支援をいただいています。

## 2015年度オーストラリア学会特別講演・シンポジウム概要

### 特別講演

#### Reading *Walkabout* in Japan: Travel, Mobility, and Place-making in *Walkabout* magazine

Associate Professor Anna JOHNSTON

2014-15 Visiting Professor of Australian Studies, University of Tokyo  
Australian Research Council Future Fellow, University of Tasmania  
Director, Centre for Colonialism and Its Aftermath

*Walkabout* (1934-74) was an extremely popular magazine that sought to introduce armchair readers to remote Australian regions and the Asia-Pacific, and to encourage them, through travel, to develop a sense of belonging and place. Lavishly illustrated with beautiful black and white photographs, and featuring some of the most interesting mid-century writers across a variety of fields, *Walkabout* addressed a diverse range of topics: geology; distinctive native flora and fauna; the outback and its people; the Pacific region; and a distinctively Australian modernity. It also formed an integral component of what David Carter has identified as Australia's long overlooked and neglected middlebrow literature. This paper shows how *Walkabout* made a significant contribution to Australia's sense of itself, providing insight into the ways in which white Australians negotiated their relationship to place, including landscapes marked by Aboriginal occupation and belonging. It also considers how Japan is represented in the magazine.

### シンポジウム I “Politics of Australia 2015: What Japan Can Learn”

ヨーロッパでのイスラム過激派によるテロリズムとそれに対する反ムスリム感情の高まりは、多文化主義とその成功例としてのオーストラリアへの関心を喚起している。日本におけるヘイト・スピーチの蔓延は、法規制の必要性に関する議論を呼び、その中でオーストラリアの人種差別禁止法 (RDA) と人権委員会 (HRC) に対する注目も高まっている。2015年は、RDAの成立から40年、人種の中傷禁止条項を追加した修正から20年となる。また、RDAとHRCに対する保守からの攻撃があるなか、その設計者ともいべきウィットラム、フレイザー両首相が、わずか5カ月の間隔をおいて逝去した。

オーストラリア学会は、このような節目の年にあたり、HRCの人種差別担当委員であり多文化主義研究の優れた著作でも知られるティム・スートポマサン博士をキーノート・スピーカーに迎え、RDAの持つ意味合いを考えてみたい。また、人権などの政策課題が有権者の行動にどのような影響をおよぼしているのか、オーストラリアの気鋭の政治学者を迎え、都心と郊外の視点から考察する。

### シンポジウム II 「新自由主義時代のオーストラリアにおける差異／境界と社会統合」

2015年は、オーストラリア労働党が党綱領から白豪主義に関する条項を削除してから50周年となる。この半世紀の間、オーストラリアにおける社会統合のイデオロギーは、白豪主義から多文化主義へ、そして福祉国家主義から新自由主義へと目まぐるしい変化を遂げた。こうした変遷を念頭に置きつつ、本シンポジウムでは、歴史学、社会学、文化人類学の「若手」研究者を中心に、新自由主義の影響が増す中で複雑化する差異やアイデンティティの問題を分析し、現代オーストラリアにおける社会統合について考察する。さらに討論者に、グローバリゼーションや多文化主義の点からこの問題を研究してきた第一人者である関根政美氏を迎えることで、世代間の「対話」を行うことが、本パネルの最終的な課題となる。

### 3. オーストラリア学会第25回全国研究大会 会場のご案内

【慶應義塾大学三田キャンパス 交通アクセス・キャンパス案内】

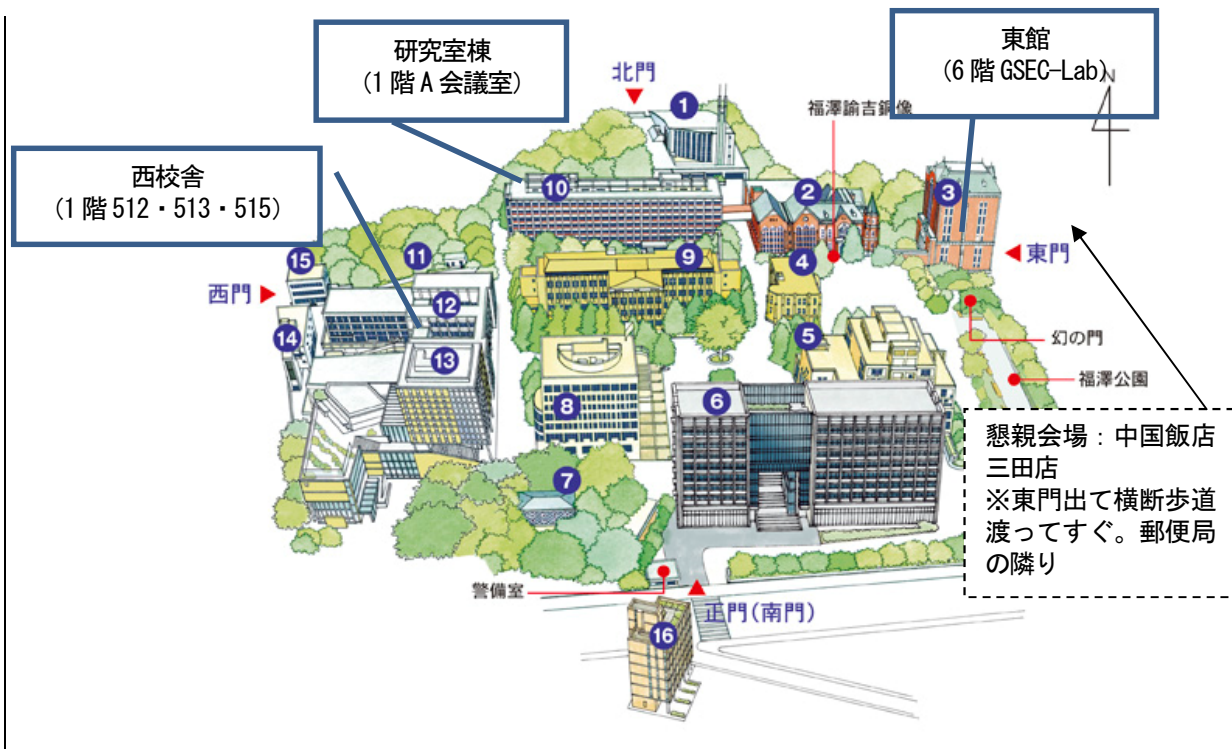


■住所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

■交通アクセス：

- ・田町駅（JR 山手線／JR 京浜東北線）徒歩 8 分
- ・三田駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩 7 分
- ・赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩 8 分

■キャンパスマップ



#### 4. 2015 年度オーストラリア学会全国研究大会テーマセッション・一般個別研究報告者および報告要旨

##### 第1分科会：テーマセッション1 (10:00~12:00 西校舎1階512教室)

###### 「オーストラリア学会・オセアニア教育学会合同セッション： オーストラリアの教育をとらえて『多様性』を考える」

司会・コーディネータ：伊井義人（藤女子大学）

趣旨：本セッションでは、オーストラリアの教育を事例としながら、生徒や教員の「多様性」を効果的に活用するヒントを模索する。オーストラリアのみならず、国際的な潮流として、教育の質を維持すること、子ども達や教員の多様性を活用することが同時に、教育機関には求められている。ここでの多様性とは、文化的のみならず、学力そして社会的な側面をも含む。本セッションでは、教育分野を出発点として、同国における市民の多様性を捉える上で、幅広いヒントを提示したい。

(報告1) 「オーストラリアン・カリキュラムに見る多様性の捉え方と実践への位置づけ方」

木村裕（滋賀県立大学）

要旨：オーストラリアでは建国以来、初等・中等教育を州・直轄区が管轄し、それぞれが多様な教育活動を展開してきたが、2008年のメルボルン宣言以降、オーストラリアン・カリキュラムの開発と導入が進められている。全国統一のカリキュラムの導入は、全国的な教育の質の保障とともに、カリキュラムや実践の画一化につながる可能性も持つ。本発表では、オーストラリアン・カリキュラムにおいて多様性がどう捉えられ、実践に位置づけられようとしているのかを検討する。

(報告2) 「多様性を活かす学校教育の推進に向けた教員養成」

本柳とみ子（東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター共同研究員）

要旨：児童生徒の背景が多様化するなか、学校教育では多様性を克服すべき課題ではなく、成長や発展の可能性と捉え、多様性の利点を活かす教育活動を行うことが重要である。そのためには高い資質能力を有する教員を養成し、教職員の中にも多様性を促す必要がある。本発表では長年にわたって社会の多様性と対峙し、学校においても多様性を活かす教育を積極的に行ってきたオーストラリアの教員養成でいかなる対応がなされているかについて検討する。

(報告3) 「大学における学生の多様な背景を活かす授業実践」

青木麻衣子（北海道大学）

要旨：グローバル人材育成推進事業に見られるように、近年、日本でも、多様な背景を持った人々と協働するためのスキルの育成が重視されている。オーストラリアでも、2008年の留学生に対する暴行事件以後、留学生と国内学生の「交流」の促進は、安全保障とともに、異文化理解を促進する上で大変重要視されてきた。本発表は、2011年にメルボルン大学の研究者らが中心になって開発した授業内での交流を促進するためのフレームワークとそれに基づく実践とを紹介し、その意義を考える。

##### 第2分科会：テーマセッション2 (10:00~12:00 西校舎1階513教室)

###### 「在豪日本人研究の現在」

司会・コーディネータ：塩原良和（慶應義塾大学）

趣旨：在豪日本人住民の増加と多様化、そして移民コミュニティとしての成熟にともない、彼・彼女たちを対象とした学術研究も近年急速に発展している。本テーマセッションでは、こうした研究の集成である長友淳編著『オーストラリアの日系人——過去そして現在（仮題）』（2015年度後半刊行予定）の寄稿者のうち4名が登壇し、在豪日本人研究の最新動向を紹介するとともに今後の展望について討論する。

(報告1) 「『芸人』: オーストラリアに渡った最初期の日本人契約労働者」

村上雄一（福島大学）

要旨：19世紀後半にオーストラリアに渡った日本人労働者としては、真珠貝採取業や砂糖黍大農園で働いた人々が有名である。一方、そのような第一次産業に従事する日本人よりも早い段階でオーストラリアに渡ってきた日本人契約労働者には「芸人」、すなわち、エンターテイナーが数多くいた。本報告では、主に19世紀後半におけるオーストラリアにおける日本人芸人を中心に概観し、日豪両国にどのような影響を与えたのか見ていきたい。

(報告2) 「‘There are many of us’: オーストラリア北西部ブルームにおける日本人移民とオーストラリア先住民」

山内由理子 (東京外国語大学)

要旨: 19世紀後半より1960年代まで、オーストラリア北西部のブルームには、真珠貝採取業の繁栄に引かれ多くの日本人が渡航した。そのうちの数人は定住し、オーストラリア先住民を含む現地の人々と家族関係を形成していった。本発表では、この日本人移民とオーストラリア先住民の子孫である人々を取り上げ、同時に双方のルーツを擁する彼らなりの「あり方」の一端を考えて行きたい。

(報告3) 「個人化・情報化・トランスナショナルリズム時代のエスニック・コミュニティ再考——シドニーにおける日本人コミュニティの考察を通して」

長友淳 (関西学院大学)

要旨: グローバル化に伴う個人化と情報化の流れの中で、日本社会の中間層では安定的なライフコースモデルが崩壊し、「自分探しの移民」(加藤 2009)、「文化移民」(藤田 2008)、「外こもり」など多様な移住形態が出現すると共に、移住研究の文脈ではエスニック・コミュニティの「コミュニティ」概念の再考を必要としている。本報告ではオーストラリアのシドニー在住の日本人居住者を事例として、彼らが構築している「コミュニティ」の特徴を考察し、その理論的解釈を行う。

コメンテータ: 濱野健 (北九州市立大学)

### 第3分科会: 一般個別研究報告 (9:30~12:00 西校舎1階515教室)

司会 吉田道代 (和歌山大学)

(報告1) 「オーストラリアの日本との微妙な関係: 『最初は同盟国、それから敵。そして現在は最良の友』」  
原田容子

要旨: 昨年11月、オーストラリアで開催されたある式典で、アボット豪首相は日本のことを「最初は同盟国、それから敵。そして現在は最良の友」と表現した。実際、現在の日豪関係は、第二次世界大戦で敵同士だった史実を乗り越え、より近しい関係に発展していき、近年では特に安全保障上の連携が強化されている。本論文では日本との関係をこの文言で表現するようになった経緯と、豪州の国内外の諸事情につき考察する。

(報告2) 「日本食関連企業の豪州展開に関する調査報告: 社会学的研究の進展に向けた予備的考察」

藤岡伸明 (立教大学社会学部 兼任講師)

要旨: 近年、日本食の海外普及が急速に進行しつつあり、各種メディアがその現状を頻繁に報道している。その一方で、日本食に関わる企業や商品・サービスが国境を越えて広がる現象を学術的に解明しようとする試みはさほど多くは見えない。そこで報告者は、豪州で事業を展開する日系のメーカー、輸入・卸売業者、小売業者、飲食店にインタビュー調査を実施した(2014年8~9月)。本報告はその調査結果を概観し、今後の社会学的研究の方向性について検討する。

(報告3) 「オーストラリア先住民に学ぶ『フォーラム型スタディツアー』」

友永雄吾 (龍谷大学国際学部准教授)

要旨: 本報告では、筆者がコーディネータとして携わってきた青年育成団体インターユース堺が実施する青年育成事業の経験にもとづき、オーストラリアでのスタディツアーについて報告する。そこではこれまで見過ごされがちであった、ホスト社会とゲスト社会の相互関係について考察し、そうした両者の相互理解を促すための「フォーラム型スタディツアー」について提示する。

(報告4) 「追手門学院大学「オーストラリア研究のためのリファレンスサイト」構築の意義と問題点」

南出眞助 (追手門学院大学国際教養学部)

阿部良子 (同・図書館)

永田舞 (同・もとオーストラリア研究所)

要旨: 追手門学院大学では2012年度に豪日交流基金の資金協力により、オーストラリア学会所属の専門家に依頼して分野別の「オーストラリア研究のためのリファレンスサイト」を立ち上げた。これは初学者を対象として、オーストラリアの有用なサイトを日本語で分かりやすく紹介するサイト集であった。今回その改訂作業にあたり、InASA(国際オーストラリア学研究会)の協力も得て、初めての日豪協同によるリファレンスサイトの構築と公開にこぎつけた。そこで作業現場から出たさまざまな問題点について整理・分析し、今後の汎用性についても展望しておきたい。

## 5. 第20回地域研究会（関西例会）報告

栗山直子

2015年3月7日（土）追手門学院大学において①「オーストラリアの先住民族アボリジニの文化、伝統的知識の保護と知的財産権- 民族自決権の保障の観点からみたオーストラリアの現状-」宮崎紗織氏（大阪大学大学院 国際公共政策研究科）、②「写真を通してみるオーストラリアにおける日本人民間抑留」津田睦美氏（成安造形大学准教授、写真作家）、それぞれ75分（発表45分、質疑応答30分）の発表がなされた。座長は①友永雄吾氏、②吉田道代氏。宮崎氏の発表では先住民族アボリジニの伝統・文化保護について民族自決権を中心に連邦、州政府それぞれの法制度と政策の分析がなされた。heritageの定義、住民側の保護意識などについて盛んな質疑がなされた。引き続き津田氏の発表では、写真（画像資料）をもとに第二次世界大戦時のオーストラリアに抑留されていたニューカレドニアへの日本人移民の体験の分析がなされた。日本人移民の文化資料をいかに保存していくか、画像資料が現物からデータへと移行するなかでの現物資料の意味づけなどについて幅広い質問がなされた。参加者は25名。

## 6. 第10回地域研究会（関東例会）のお知らせ ※事前申込み不要、非会員の方も参加出来ます。

### ラウンド・テーブル

#### 「オーストラリア演劇と戦争の記憶—The One Day of the Yearの描くANZAC神話」

- ① 『年に一度のあの日』The One Day of the Year (Alan Seymour) リーディング上演
- ② ラウンド・テーブル：和田喜夫（演出家）、渡辺幸典（相模女子大学）、佐和田敬司（早稲田大学）＝モデレーター

オーストラリア演劇史上最も重要な作品の一つであり、ANZAC神話を主題とするAlan Seymourの戯曲『年に一度のあの日』The One Day of the Yearを日本ではじめて上演し、作品の意義と、表現メディアを通して語られる戦争の記憶について議論します。リーディング上演の観客である学生や一般からも広く議論への参加を求めるラウンド・テーブルとします。

共催：早稲田大学グローバルエデュケーションセンター（「演劇・舞台芸術」全学共通副専攻全体活動）  
早稲田大学オーストラリア研究所

日時：2015年11月21日（土）13:00～18:00

会場：早稲田大学・早稲田キャンパス（教室未定：次号の会報で告知）

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩5分

<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

連絡先：佐和田敬司（早稲田大学）ksawada@waseda.jp

## 7. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2015年5月に年会費を納入しても、2014年度未払いの場合、それは2014年度の会費となります。すなわち、2015年度は未納ということになります。また2013、2014年度未払いの場合、2013年度分の会費納入になります。

<2014年度分会費、及び、それ以前の会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2014年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2015年3月発行、第28号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

## 8. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けておりますが、**次の29号の締め切りは2015年8月31日**です。**29号・30号に掲載された論文は「第2回オーストラリア学会優秀論文賞」の対象となります**ので、奮って投稿してください。投稿要領については、学会ウェブサイト、もしくは28号掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2015年10月30日です。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだCDもしくはUSB)をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会担当  
TEL：03-5937-0249 FAX：03-3368-2822 Email：asaj-post@bunken.co.jp

### 【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当 TEL：03-5937-0249 FAX：03-3368-2822 Email：asaj-post@bunken.co.jp

### 【オーストラリア学会事務局】

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル 同志社大学政策学部 川口章研究室気付  
TEL：075-251-3469 E-mail: akawaguc@mail.doshisha.ac.jp  
会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当：村上雄一 (福島大学) / 編集協力：濱野健 (北九州市立大学)]